

指導のポイント

- 一人一人の児童の意欲を高め、授業に引き込むために多様な表現活動の工夫をします。
- 児童が資料を理解したり、内容を深く受け止めたりする手助けとなるような方法を工夫することが大切です。

具体的事例

役割演技

児童に特定の役割を与えて、即興的に演技をする工夫です。

ア 主人公を演じる

トラックにつるを切られ、泣いているかぼちゃを演じる児童

資料名「かぼちゃのつる」
(出典「小学校道徳の指導資料第3集文部省資料」)



教師が相手役を演じ、児童の思考を深められるようにしましょう。慣れてきたら児童同士で演じることも可能です。



Point

- 代表の児童に演じさせるだけでなく、演じたことをもとに、クラス全員でねらいとする道徳的価値に迫るための話し合いを行いましょ。演者に対して：「どんな気持ちで演じたのか？」 観客に対して：「演技を見て、どんなことを考えたか？」 など
- 児童が、自分の考えと比較しながら友達の演技を見ることができるよう言葉かけをしましょう。

イ 主人公以外の登場人物を演じる



かぼちゃ以外の「はち、ちょうちよ、すいか、いぬになってかぼちゃさんに意見を言ってあげましょう。

- 主人公だけではなく、その他の登場人物になることによって相手の立場も体験できるようにすると、一方的、表面的なものの考え方に気付くことができます。

ウ 一人の心の内の葛藤を二人で演じる



資料名「手品師」の例 出典「小学校道徳の指導資料とその利用 文部省資料」

○ 児童の考えを明確にさせてから、役割演技を行きましょう。

ペープサート・人形劇化

紙芝居で資料提示を行った後、ペープサートを活用して主人公の心に寄り添えるようにする。

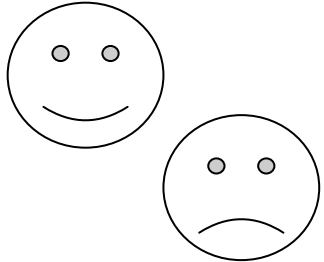


動作化

登場人物の動きやせりふをまねすることによって、実感が伴った登場人物への共感が得られます。

イラスト化

表情のない顔の絵に表情を入れて、その理由を語ります。



留意点

- 教師は、児童のせりふの言い方や身体表現の上手下手ではなく、その内容に注目できるように、言葉かけをしましょう。
- 役割演技を行った後は、はっきりとその役割を解くようにしましょう。特に人間の弱い部分を演じさせた場合は、十分な配慮が必要です。